（別紙4）　　令和　元　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2390100028		
法人名	ケアーサービス株式会社		
事業所名	グループホーム しもかた		
所在地	名古屋市千種区下方町３－１３		
自己評価作成日	令和元年1月16日	評価結果市町村受理日	令和2年４月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2390100028-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5　かえでビル　2階
訪問調査日	令和2年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者の重度化に伴い、従来のグループホームの機能とは異なってきているが、複合施設の利点を活かし、多職種と連携し重度者のケアや医療面のサポートも可能となっている。今年度も条件付きではあるが、看取りもさせて頂けた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所の近くには、上の天満宮や天満緑道、千種公園や小学校などもあり、四季折々の風情を楽しめる閑静な住宅地に位置している。ディサービスやショートステイ、介護付有料老人ホーム、ケアマネ事業所を併設する複合施設の1階にホームがある。会社の経営理念を基に事業所理念を設定し共有して、日々のケアに繋げるようにしている。「その方が歩んでこられた人生を尊重し温もりのある場」を目標に、自分の家のような居心地の良いぬくもりの中で、人とふれあい笑顔に満ちた生活と「その人らしさ」を尊重した支援に努めている。町内会に加入し管理者は輪番で組長を引き受け、清掃や資源の分別当番、防災訓練、夏祭りの準備などに参加して地域との繋がりを深めている。また、入居者は職員と共に上の天満宮や天満緑道に出かけ四季を感じたり、ファミリーレストランなどで外食を楽しんだりしている。併設のデイサービスと合同でボランティアを招き大正琴や踊り、歌やゲームなどで楽しだり、趣味の習字や絵を描いたりマージャンをしたりして交流をし、高齢者の憩いの場となるような取り組みを行っている。生け垣が垣間見られる居間で、気の合う入居者同士で談笑をしたり、じっくり新聞を読んだりテレビを見たりして穏やかに過ごしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営母体が変わった為、新しい理念「家族主義」「共に生きる」の浸透に心がけている。	経営理念をもとに職員の意見を反映し事業所独自の理念を設定している。毎日の朝礼や申し送り時に唱和をし心を一つにしてより良いケアを目指し、入居者が自分の家のような居心地の良いぬくもりの中で、「その人らしさ」を尊重した支援に努めている。職員会議などで確認して日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺を散歩する際などに挨拶を交わしている。	町内会に加入し、回覧板や自治会長から情報を得ている。管理者は町内の会合に参加し輪番で組長を引き受け、清掃や資源の分別当番、防災訓練、夏祭りの準備などに参加して地域とのつながりを深めている。併設のデイサービスと合同でボランティアを招き入居者や高齢者の憩いの場となるような取り組みを課題としたり、地域との日常的な交流や保育園や小学校などと繋がり風通しの良い施設づくりに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ活かせていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	人員不足により不定期の開催となった。	入居者家族、自治会長、サンクリニック相談員の参加を得て、併設のデイサービスと合同で開催をしている。事業所の運営状況や活動内容、職員状況などの報告を行っている。参加者からの意見や提案等はその場で話し合ったり、記録して会議などで協議しサービスの向上に活かしている。また、新会社説明会を開催し今後の運営や推進会議の持ち方などの話し合いも行われた。会議録は、出席できなかった家族全員に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携が取れていない。	行政担当窓口には介護保険更新手続きや申請の代行業務、サービスの取り組みなどを伝え、情報交換をしながら協力関係を築くように努めている。包括支援センターとは、入居状況などについて話し合っている。市主催の研修会には、積極的に参加するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを徹底している。	委員会を立ち上げ3か月に1回、職員一人ひとりがチェック表により評価して身体拘束廃止に向けた取り組みをしている。また、職員同士で注意し合い小グループで集まって話し合う機会を持ち共通理解できるよう努力している。職員は、人としての尊厳を大切にして家庭的な雰囲気の中で「その人らしさ」を見失うことなく身体拘束や過剰介護、スピーチロックをしないケアを周知し理解を深めている。日常の生活では見守りを重視して自由な生活空間を提供し、束縛感のない生活が送れるよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	人員不足の為、定期的に研修が出来ていない。職員会議時等に虐待につながるような行為がないか確認はしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度は既知であるが、活用はされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の立場に立ち、分かり易く説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者については、言葉に表れないことも見逃さぬよう努めている。 ご家族については、面会時・運営推進会議時にお伺いし、改善に努めている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、申し送りノートや日々の日報に記録して職員間で共有しケアにつなげている。家族からは面会時や運営推進会議、ケアプランの説明時に意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立てている。「しもかた通信」を毎月発行し、家族に安心を届けている。職員は、日ごろから意見を述べやすい環境を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が常日頃からコミュニケーションを図り、施設長会議や運営会議等で代表者等に意見を反映させている。	毎日、朝と帰りに巡回し、朝礼や申し送り時に話す時間を作り連絡や相談、要望など聞くようにしている。管理者は常に職員の声に耳を傾け、なんでも話しやすい環境作りに努めている。人事考課制度を導入し、それぞれが設定した目標に対して自己評価を行い、自らの力量を正しく理解して、より良いケアに繋げるよう努めている。管理者とは年1回の面談の他必要に応じ話す機会を持ち、常に職員の提案や意見、悩みなどを聞き、業務や職場環境などに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営母体変更に伴い就業環境も一新されている。人事考課やキャリアパス等も変更され、職員のやりがいにも繋がっていくことを期待。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体変更に伴い研修制度は充実したが、人員不足によりなかなか研修に参加できない状況は続いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修同様		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前実態調査、契約時とご本人からアセスメントを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、ご家族からもご意見を伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	複合施設の利点を活かし、デイサービスで施設に慣れてから入居したケースもある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の重度化に伴い、共に家事援助を行うことは少なくなったが、家族的な関係作りを目指している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者同様家族的なおつきあいをさせていただいている。通院や外出等無理のない程度にお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に頼るところが大きい	フェイスシートや家族から生活歴や馴染みの人、場所を把握し、今までの生活が再現できる支援を目指している。友人や知人と旧交を深めたり、家族の協力を得てお墓参りや自宅に帰って過ごしたりして、馴染みの人や場所の関係が途切れないような支援に取り組んでいる。また、入居者同士が集まってマージャンや家事の継続、今まで培ってきた経験などを生かした支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置に配慮したり、職員が間に入る等して、入居者同士が関わり合えるよう努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰されるケースは少ない		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度化に伴いご自身で自己決定ができる方は少ないが、本人本位の視点で考えるよう努めている	入居者の気持ちに寄り添い、些細な変化を見逃すことがないように心がけたり、入浴時や散歩などゆっくりとした時に思いや希望を聞くようにしている。日常のさりげない会話、表情など、ケアの中から感じ取ったことは、申し送りノート記録して会議などで話し合い職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から思いを把握したり家族から話を聞いたりして本人本位に検討をして、一人ひとりの思いに寄り添う支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前実態調査時ご本人、ご家族からアセスメントを行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通じ、時間帯による心身状態の変化を把握し、個々に対応している		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン書式も今後変更予定。よりご本人に最適なプランになる様努める。	職員が入居者の意向を聞き個人記録や日誌、申し送りノートなどに記載して、情報を共有しながら実践に取り組んでいる。毎月状態の変化をモニタリングし、目標を設定して、6か月ごとの短期目標の見直しと、1年に1回の長期目標の見直しをしている。医師や看護師など関係者の意見と家族の意向等踏まえながら、問題や課題について話し合い、現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した場合は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン同様		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存サービスの活用		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等でボランティアを活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、24時間の連絡体制	入居時にかかりつけ医か提携医か聞いているが、ほとんど提携医に変更している。内科は月２回、歯科と眼科は月１回往診が受けられる。専門医の受診は家族の協力を得ているが、緊急時や家族が付き添えない場合などは職員で対応している。受診結果は連絡ノートや日誌に記録して情報を共有し健康管理に努めている。身体状況に変化があった場合や緊急時は、訪問看護師と24時間連携を取り主治医や提携医、協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他部署看護職員、かかりつけ医の看護職員との連携を密にしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	サマリーの提供や、入院後も病院ワーカーとの連絡調整を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を書面で提示している。またご本人、ご家族の意向も伺っている。 かかりつけ医との連携も密にしている。	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と事業所のできる事の限界も詳しく説明して家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合は早めに入居者や家族に希望を確認し、医師や訪問看護師、その他関係機関と話し合いながら入居者にとって最善の援助ができるよう努め、可能な限り希望に添うよう支援をしている。職員のメンタルや看取りについては、マニュアルが常時見られるようにしている。ターミナルに向けての研修と日々のケアの大切さも説明しながら事業所全体で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はできていない。今後改善したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の実施	有料老人ホームと合同で夜間の職員体制を基本として、火災や洪水の他に様々な災害を想定した避難訓練を年2回行っている。避難誘導や避難経路の確認と備蓄品の期限等の確認をしている。今後、消火器を使って初期消火の訓練を予定している。備蓄品は3階屋上と1階倉庫におかゆなどの食料と水などが用意されている。施設は耐震耐火構造のため地域の一時避難所としても受け入れが可能なことを回覧板で知らせている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族的な対応はしているが、自尊心を傷つけるような言動の無いよう努めている	人生の先輩として、これまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使い、声のトーンなどお互いチェックし合っている。入居者の個性や人格、相性や性差などを考慮した言葉使いや対応に努め、笑顔あふれる温かい環境作りを大切にしている。研修マニュアルを利用して接遇などの勉強会を行い、どの職員も同じケアができるような環境を整えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に声かけを行い、傾聴するよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りご本人のペースで過ごしていただけるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限りご本人の希望に沿った服装選びを行っている。 月1回の訪問理美容の実施。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化に伴い食事作りは行っていない。 定期的ではないが、外食も行い気分転換を図っている。	1階の厨房で管理栄養士が季節の食材を取り入れた献立で毎食手作りしている。厨房では、制限食や刻み食、ムース食などにも対応している。毎月1日は赤飯の日としたり、ケーキの日を設けたり、入居者の希望のメニューに変更したりして、食事を楽しむ工夫もしている。また、おやつのスイーツ作りも楽しみの一つとなっている。今後は選ぶ楽しみとして、セレクト食を取り入れることも考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立作成。食事、水分摂取量の把握		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、本人の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している	排泄チェック表から排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は自力での排泄を目指している。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切にし、丁寧な見守りの支援を行っている。夜間は安全に配慮してポータブルを利用している入居者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医、看護職員との協働		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおむね入浴日は決まっているが、状況に応じて臨機応変に入浴していただいている	入浴は週2回を目安に行っているが、希望があればいつでも入浴できる環境を整えている。デイサービスに設置されている大きなお風呂を毎回利用し、お湯は循環式で温度調節やお湯の補充機能があり常に清潔に保たれている。たまにデイサービスの利用者と一緒に温泉気分を楽しんで入浴することもある。リフト浴で介護度の高い方もたっぷりのお湯につかって温まることができる。冬季は脱衣場の暖房機を利用してヒートショックに配慮している。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活リズムを把握し支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員による管理、指導		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のできることを役割として行っていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的にはできていないが、可能な範囲で行っている	落ち着いた街並みが周囲に広がっており、近隣には上野天満宮、上野公園、千種公園などがあり、のんびりとお散歩できる環境が整っている。お天気の良い日には、外気に触れる機会を大事にしている。玄関先の花を見て楽しんだり、デイサービスの行事に参加するために館内を歩いて行き来することも気分転換や筋力低下の防止になっている。誕生日にはファミレスで食事を楽しむ機会もある。家族の協力を得てお墓参りなどに出掛ける入居者もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ施設側での管理		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時は、施設の電話を使用していただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの飾りつけなど家庭的な雰囲気づくりをしている	共用空間は、絨毯張りのフロアーをソフトなクッション性のあるフローリングに張り替え明るく清潔感のあるワンフロアーの共有空間となった。居間の壁には、四季を感じられる手作りの作品を飾り、展示コーナーには、入居者の作品を飾ったりして家庭的な生活空間にしている。建物の構造上キッチンから見えない居室は気配や物音などに特に注意をして入居者を見守る配慮をしている。入居者は思い思いの場所でテレビを見たり、絵を書いたり、おしゃべりをしたりしてのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他部署に遊びに行ったり等、施設内は制限なく移動可能		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症についてご家族に説明し、可能な限りご本人になじみのあるものを持ち込んでいただいている	掃除の行き届いた居室の床は、カーペット敷きで滑りにくく安全に生活できるように配慮している。クローゼットと洗面台が備え付けられ、衣類の整理をしたり歯磨きや身支度もできるようになっている。入居者の好みの椅子やテレビ、携帯電話や位牌など自宅で使用していたものを持ち込み安心できるスペースや環境づくりをしている。また、愛着のある手作り作品や写真などを飾って自分らしく落ち着いて過ごせるよう配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、バリアフリーにて安全を確保している		